

ユニット 1-B : インド的歴史観 (ver2.1)

ねらい

古代インド人は、この世界（宇宙）の始まり・変化・終わりについて、独特の「歴史」観を作り上げた。ここで「歴史」というのは、現実の出来事の継起という意味ではなく、神々と英雄をめぐる語りにおいて語られる過去から未来にいたる時空間（time-space）のことである。このユニットでは、東南アジアにも多大な影響を及ぼしたインド的歴史観について、主としてヒンドゥー教の視点から概観する。

1. ヒンドゥー教の神々

- ヴェーダの神々：バラモン教の神々。自然現象の神格化。例：アグニ神（火神）、ヴァーユ神（風神）、スーリヤ神（太陽神）、インドラ神（帝釈天、雷神）。
- 叙事詩・プラーナの神々：ヒンドゥー教の神々。人格神。民衆信仰に起源。
- トリムルティ（三位一体）：宇宙の創造・維持・破壊を司る 3 大神
- ブラフマー（＝梵天）：宇宙の創造。妃サラスヴァティー（＝弁才天）。
- ヴィシュヌ：宇宙の維持。妃ラクシュミー。
- シヴァ：宇宙の破壊。妃パールヴァティー（ウマー＝ドゥルガー）。

2. 宇宙の生成と消滅

- 四つのユガ。1《神》年＝360《人》年。1 マハー・ユガ＝12000《神》年＝432 万《人》年。
- クリタ・ユガ（＝サティヤ・ユガ）：正法（ダルマ dharma）の時代。4800《神》年。
- トレーター・ユガ：正法の 4 分の 1 が欠ける時代。3600《神》年。
- ドヴァーパラ・ユガ：正法が半分欠ける時代。2400《神》年。
- カリ・ユガ：正法の 4 分の 3 が欠ける。現代。1200《神》年。

3. 仏教とヒンドゥー教の宇宙の違い

- 仏教：創造主なし。「衆生」の「業」によって生成・消滅。
- ヒンドゥー教：宇宙は神によって創造・維持・破壊される。時間とともに法が減少。

4. アヴァターラ (avatāra) : ヴィシュヌ神の 10 の化身・転生 (ヴィシュヌ信仰)

- 魚（マツヤ）（クリタ・ユガ）
- 亀（クールマ）（クリタ・ユガ）
- 猪：ヒラニヤークシャを倒す（クリタ・ユガ）
- 人獅子（ナラシンハ）：ヒラニヤカシプを倒す（クリタ・ユガ）
- こびと（ヴァーマナ）：バリを倒す（トレーター・ユガ）
- パラシュ・ラーマ（斧を持つラーマ）（トレーター・ユガ）
- チャンドラ・ラーマ：「ラーマヤナ」の主人公（トレーター・ユガ）
- クリシュナ：「マハーバーラタ」の主要人物の一人（ドヴァーパラ・ユガ）
- ブッダ（カリ・ユガ）
- カルキ（カリ・ユガ）

参考文献：今回の講義のテーマに関わるもの

1. 青山 亨。「叙事詩、年代記、予言：古典ジャワ文学にみられる伝統的歴史観」。『東南アジア研究』32巻1号。pp.34-65. 1994.
2. 定方 晟。『インド宇宙誌』春秋社。1985.
3. 長谷川 明。『インド神話入門』（とんぼの本）新潮社。1987.
4. 菅沼 晃。『インド神話伝説辞典』東京堂出版。1985.
5. Dowson, John. *A Classical Dictionary of Hindu Mythology and Religion*. Org. 1894.
5. は簡潔・網羅的でかつ信頼できる。